

## 【地域資源活用】分科会

### 発表団体

府県	市町村	発表タイトル	団体名
兵庫県	丹波市	山南町の恐竜化石を活かしたまちづくり	兵庫県丹波市・ かみくげ恐竜の里づくり協議会
滋賀県	大津市	歴史遺産「石山貝塚、蛸谷貝塚、粟津湖底貝塚」 など日本最大淡水貝塚の常設展示館（仮称石山 貝塚ミュージアム）開設への取り組みについて	（社）石山観光協会 近江しじみ貝塚研究会
大阪府	大阪市	地域資源～「菊炭」を活かした伝統文化と次世 代に伝える活動・展開～	NPO 法人シニア自然大学校 菊炭クラブ
兵庫県	上郡町	大鳥圭介没後 100 年を活用した地域づくり	赤松校区むらづくり推進委員会 大鳥圭介公生誕地保存会 兵庫県上郡町



### コメンテーター



横山 葵 氏（NPO 法人「人と自然とまちづくりと」理事長）

〔プロフィール〕

NPO 法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局長、(有)エイライン代表取締役。技術士（総合技術監理、都市及び地方計画 / 道路）。

人と自然が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。

また、地域が元気になる為に地域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡大の実践も手がけている。

### はじめに

コメンテーター 横山氏

こんにちは。こちらは地域資源活用の分科会ということで、今日、基調講演の先生方も、資源のことについて、いろいろお話しされたかと思うんですが、そういう宝を探して、磨いてらっしゃった皆さんの、いろんな角度のお話を今日は聞けることを楽しみにしております。

### 山南町の恐竜化石を活かしたまちづくり

兵庫県丹波市・かみくげ恐竜の里づくり協議会  
事務局長 村上氏

横山氏：たった5年6年で、事業としても成立させるような筋道も作られている。それと経験についても、恐竜を探すという環境も、そこへ来れば体験できるってというようなことまで考えられている。このようなアイデアはどのように出されたんですか。

A：私は、普通のサラリーマンだったので、偶然見つけた。日本で、恐竜の化石を見つけるのは、ほとんど偶然、奇遇で見つかるもので、研究者が見つけたりということはほとんどないんです。化石が出て来たことをきっかけに、恐竜をベースにして、その枝葉を伸ばしてまちづくりということをやっているわけです。私も、発見したときの興奮とかいったことを詞にため、詠いまして、それに曲付けし、子どもたちが歌っています。また、この大きな恐竜に、子どもが背中に乗って行ったらどうなるか、恐竜が子どもに恐竜の世界を案内してやって、そこで環境の問題とか、命が今の現在までつながっているというところに、環境問題の大事さとか、命の大切さといったことを絵本にしたりと、恐竜をベースにしているんなところに枝葉を伸ばしてやっていきます。今は、全国にはないと思いますが、恐竜太鼓っていう鹿の皮をなめして作る太鼓をベースに作曲家に曲作りを頼んです。これからの地域の文化として創生して、これから継承していこうと思って、今取り組んでいます。

Q：事業内容のところ、販売と書いてあるんですけど、どれぐらいの事業費用なんですか？

A：今のところは、集客という面からしたら、

土日祝日しかオープンできないです。今年は、500万ぐらいの規模。これからいろんなことを加味していきながら、売上を伸ばして地域貢献していきたいと思っています。

Q：先ほど、建屋だけ、市の助成があるということの説明されたが、運営費について市の関与はどの程度ある？

A：運営は私たちがやる。市は、空き駐車場を買い取ってくれたり、そこからトイレを作ってくれたりします。展示施設とか、化石の発見棟の建屋は、私たち、作っています。恐竜のバッチ、は市長から全部、市役所の要職にある方は、皆さん付けてくれています。

歴史遺産「石山貝塚、蛸谷貝塚、栗津湖底貝塚」など日本最大淡水貝塚の常設展示館（仮称石山貝塚ミュージアム）開設への取り組みについて

石山観光協会事務局 ガイド担当 谷村氏

Q：ミュージアムが、近くにてできる段取りはできておられるのですか？

A：石山観光会館という建物が、ちょっと2階のデッキがあり、そこを活用して、昨年使った状態のパネル展示は行っています。観光ということで、石山寺の跡ですが、たくさんの人たちが来られます。観光案内所も兼ねている。一昨年、国から視察に来られ、あんまり周知されていませんよねっていう話になり、とりあえずそこから手がけるということで、動きが始まった。

地域資源～「菊炭」を活かした伝統文化と次世代に伝える活動・展開～

NPO法人シニア自然大学校 理事 堤氏

Q：後継者の育成で何が一番問題ですか。

A：炭だけの生産ですので、それだけでは生活できません。炭を焼くっていうのは、だいたい冬場のお仕事で、夏は農作業をやり、冬場の農閑期に炭を焼くという昔ながらのハイブリットな生活をしていかないと非常に難しいです。現実今、池田炭をやられてる方が3カ所いるんですが、3名人いるんですが、それぞれ農業と炭をやっています。

Q：その炭は、売り先はあるんですか？需要はあるんですか？

A：売り先は、NPO としていろいろ開拓しております。お茶業界はかなり古い業界ですが、NPO だからそんなに PR をしないんですけど、口コミで、年間 50 万ぐらい買っていていただきます。池田炭加工所というところも持っており、加工製品を開発している。また、ホームページに載せているが、水の浄化とか、脱臭材。それと、炭の美しさを皆さんに知っていただく、そのようなことも、年間 100 万ぐらい売り上げています。

Q：普通の炭じゃなくて、菊炭（化粧炭）だから潰したりとか、最近、日本のデザインっていうのも、すごくもてはやされてきてるじゃないですか。

A：海外でも、ドイツあたりでは、菊炭っていうのは非常に有名です。ドイツ人は、日本文化についてよく知っている人が多い。大阪へ行ったとき、大阪城に行って菊炭持って行ったら、すぐドイツ人は寄って来ます。ヨーロッパ系は伝統的なものは強いです。

## 大鳥圭介没後 100 年を活用した地域づくり

兵庫県 上郡町 産業振興課 木村氏

横山氏：町の人々がアニメーションの声とかに登場していて、さらにそれを皆さんで見る、周りの人とかにも言いたくなる。それはなかなか楽しいことです。引き続き事業をしても、皆さんやっぱりそのために協力していきやすいようなきっかけ作りにすごくうまく活用できるんじゃないかなというふうに思ったんですけど、こういうアイデアっていうのはどこから生まれてきたんですか。

A：アニメーターの方が帰省されているときにお会いしまして、ケーブルテレビを町で始めることになり、アニメを作れるんじゃないかなという話から、アニメーターの友達が友達を呼んで、背景画などは町内在住の主婦や、画を描くのが上手な人がやったり、芸大を出てる人とかがあり、今はインターネットで背景画も全部送っていただけるので、それを当てはめたんです。主題歌のほうも役場の職員がバンドをしまして、その者が作詞作曲して、流れております。

横山氏：地域の情報発信版に替えることもできますよね。たとえば、防災の訓練がいついつありますみたいな話も、この番組のときにテロップが流れると、前後にあるとか言ったら、必ず見ているから、そういう仕掛けとして面白い形に

なります。なんか、理論が先にあるのではなくて、楽しみが先にあって、実はいろんなことに広がるよねっていう仕掛けになっていて、面白いなと思った。行政がこの時代に、これだけちゃんと町のほうにお金だとかいろんなことを、町の人もたぶんいろいろ出されているんだと思うんですけど、やられるというのは、なかなか見当たらない。

A：やはり行政がバックアップしないと、規模が大きい場合は、自主財源の確保に困る。これからは本当に地域づくりは、みんなで力を合わせる。アイディアはあるが、仕事に就けていない人もたくさんいる中で、本当にどうやってまちづくりをするのか、真剣に考えなければならぬ。

## 自由討議・意見交換

Q：上郡町の人口はどれぐらい？主要産業は？大鳥圭介のほかに観光資源は？

A：人口は、1 万 7 千人弱。観光という目玉はそんなになく、自然を生かした体験型の観光をやっている。観光客が集まっているのは、赤松円心や大鳥圭介などの歴史資源で、体験型の農業であったり、桜や梅の咲くころなど自然に誘導する観光を進めている。

Q：地方財政が厳しい環境で、これだけの資源を投資した状態で問題になりませんでしたか？

A：一番最初に問題が上がったのは、建物が老朽化していること。それから大鳥圭介を取り上げていても、あまりにも粗末に扱っているのではないかっていう声がありました。やはり、40 年前ぐらいまでは、役場の前に銅像が建てられたりしていたが、生誕地整備の要望があり調べてみると、没後 100 年でこれを逃していけないと思った。それまでにやっぱり地元の方が、いろいろ情報発信をされていた。それと、ケーブルテレビ事業っていう町の課題がありました。生誕地の建物を改修するには兵庫県の補助金と寄付金などで賄った。

横山氏：行政もそういう形でいろんな情報を集めて、知恵を働かせている。

Q：入館するため維持管理するのはどうしていますか？維持するのも大変なことだと思う。

A：現在は、ふれあい喫茶という喫茶店をやっています。なかなか継続しないといけなないので第 1 と第 3 の日曜日午前中ということに限定をして、すべて自治会経営の担当で、5 つの自治会で今ずっと持ち回りをしている。年間での売り上げは 10 万円行くか行かないか程度です。

不足分は、自治会が負担している。

Q：かみくげ恐竜の里の運営はどのようにしているのか。

A：兵庫県に貴重な資源が出て来たということで、県がバックアップ、応援してくれている。国からの補助金とか交付金とかいったことも調べて支援してくれている。市は、いろいろと財政難のときに協力してくれたりしました。県民交流広場もうちは採用して、いろいろと手を加えてやっており、農水省のふるさと支援事業というのも活用している。ローカルの博物館かなんかも作ってくれ、あと何、数年の計画で、補助整備ですけども、大勢の人が来てくれ、散策ロードを作ったり、また新たなモニュメントを考えてくれたりというようなことで、県と市が相当バックアップしてくれています。

横山氏：地域の人がこうやって参加して、自分たちで参加して作ったり、考えたり、活動したり、一角担うと、みんなが笑顔になれ、元気になっていって、そうやって人に伝わっている。

横山氏：活動してらっしゃる方は、すごくその町の宝を分かって磨こうとされているんですけど、地域の人、全然関心がないってということも、多々あります。どうやって関心を持ってもらっていますか？

A：恐竜の化石を見つけて注目を浴びるようになって、まちづくりってことを考えたときに、一番ネックになったのは、自治会の体制がうまく起動するようになっていかなかったこと。ところが、今までずっと田舎に住んでおった人たちは、なかに、そこにメスを入れる勇気がないというのが、入れられない部分。だけでも私は外から帰って来たから、こんな体制ではものが動かないよと言い、それなりの成果が出てきたら、あまり何も言わなくなってきた。ただ、5年間やってきたなかで、まちづくりのほうのメンバーが全然変わらず、ほかの住民たちは冷やかに見ている。後継者作りは非常に難しい問題と思う。

A：菊炭では、親と子ども両方セットして集めて、見学会をやっています。それともう1つは、今の30代、50代、これ現役で非常に忙しいので、なかなか参加できません。そういう人たちにはどうするかっていうのは、我々も悩みですけど、しかしPRはしなくちゃいかんということで、PRを、都度、皆さんに、お送りしているということはやっています。

横山氏：高度経済成長期に子どもだった30代から50代以下の人たちって、体験、何にもしてないですよ。

A：森にも行ってない。だから、その人たちが一番熱心ですよ。森の体験とか川の体験をするとき、一番熱心で、一番面白い。一方で、最近、実はそんなに忙しくなくて、心が不安になるくらい仕事がないっていう方のほうがすごく多くなっている。そんななかで、こういう巻き込みがあってもいいなところは意味大事。

A：私たちが非常に大事だと思うことは、私たち内部から発信していくというのも非常に大切ですが、外部から内部に向っての効果っていうのが、非常にある。たとえば、我々は、住んでいる場所が非常に大事なんです。1億年前のものを見たり体験できたりする場所だということ、たくさん人が、北海道からも来ます。九州からも、化石の体験とかいうて来ます。そういう人たちが大勢来るということによって、それからまた学校が、教科のなかで、課外活動で来てくれるんです。年間5,500人から6,000人来てくれます。化石の体験。そんななかで、立派な化石を見つけて帰る人もおります。そういう人たちが来るということによって、今まであんまり関心のなかった地元の教育委員会も地元の小学生も、去年から毎年、来てくれる。

Q：化石は持って帰れるんですか？

A：持って帰れないんです。来てくれた人には、これは見つけた人の名前と住所全部書いて、ケースに入れて、地元で作った手作りの展示施設に飾ってるんです。

横山氏：500万の事業にする、いろんな人巻き込んだ、恐竜焼きも含めて、仕掛けていき、成功させている。どういうふうにしたのか。

A：それは、物品の売上、それから体験することによる収入です。そのなかにはたとえば、近くに広い公園があるんです。キャンプにも町からも来てくれます。その管理は今まで市が管理してくれたが、それを全部、管理委託も全部私どもが、このグループが受けました。私たちが、時間を持て余してる地元の高齢者に、働きたい人に、管理委託しています。

Q：活動主体の話で、石山観光協会は、観光協会がここまでやられるというのも珍しい。

A：観光協会のそのなかで、新しく近江しじみ貝塚研究会という組織を、地域の皆さんと巻き込みのために作り上げたんです。たぶん観光協会がやるのは楽なんです。だけどそうではなく、お金もなにもない状態で、地域の状態と皆さんと巻き込んだ状態で、やろうという発想です。